

## 令和2年度ネットリサーチ「人権意識」に関するアンケート結果報告書

### ■結果のポイント

- 「人権」が大切だと思うかについては、「そう思う」(51.9%)と「少しそう思う」(28.4%)を合わせた【そう思う】が80.3%となっている。一方で、「あまりそう思わない」(2.2%)と「そう思わない」(0.9%)を合わせた【そう思わない】が3.1%となっている。
- 力を入れるべき人権の分野については、「新型コロナウイルス等の感染症に起因する人権問題」が44.0%で最も高く、次いで「障害のある人」が42.5%、「子ども」が38.1%と続く。
- 性的マイノリティに対する差別や偏見のない社会を実現するために必要なことは、「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が34.3%で最も高く、次いで「教育現場での啓発活動の実施」が32.5%と続く。

### ■調査結果の概要

#### 1 「人権」の大切さについて

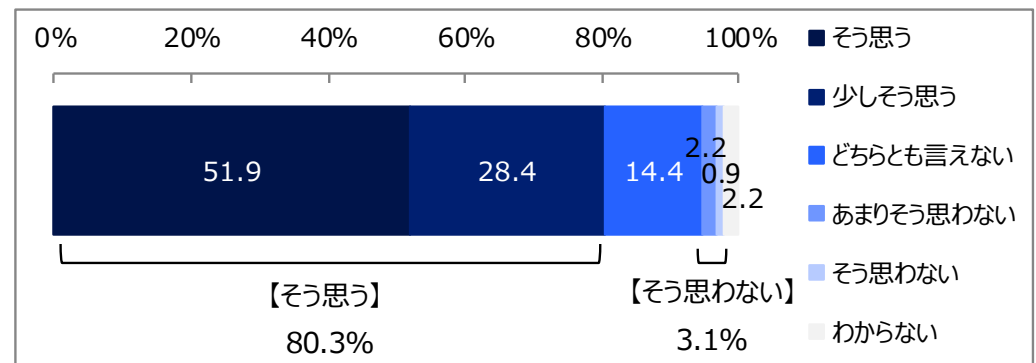
- ◇ 「そう思う」(51.9%)と「少しそう思う」(28.4%)を合わせた【そう思う】が80.3%となっている。一方で、「あまりそう思わない」(2.2%)と「そう思わない」(0.9%)を合わせた【そう思わない】が3.1%となっている。

Q1.あなたは日常生活の中で「人権」※が大切だと思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

※「人権」とは、「人が人らしく生きていくために社会によって認められている権利」であり、誰もが生まれながらにして持っている、誰からも侵されることのない基本的権利のことです。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
そう思う	51.9	519
少しそう思う	28.4	284
どちらとも言えない	14.4	144
あまりそう思わない	2.2	22
そう思わない	0.9	9
わからない	2.2	22



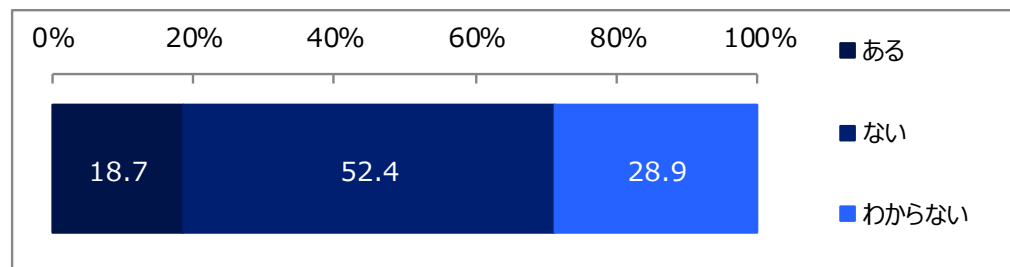
## 2 人権が侵害された経験

☆ 「ある」は18.7%となっている。一方で、「ない」は52.4%となっている。

Q2.あなたは、自分の人権が侵害されたと感じたことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
ある	18.7	187
ない	52.4	524
わからない	28.9	289



### 3 人権が侵害されたと感じた状況

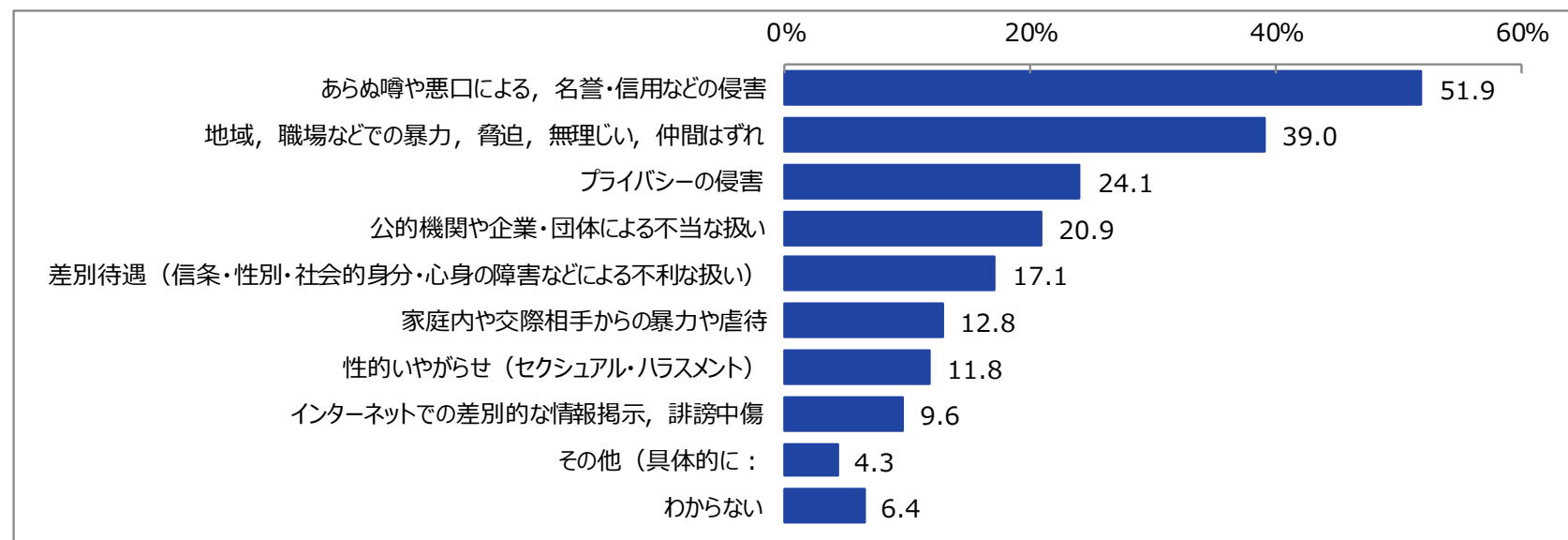
☆ 「あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害」が51.9%で最も高く、次いで「地域、職場などでの暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ」が39.0%と続く。

(Q2で「ある」と回答した方へ)

Q3.それはどのような場合ですか。差し支えがなければ、次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	187
あらぬ噂や悪口による、名誉・信用などの侵害	51.9	97
地域、職場などでの暴力、脅迫、無理じい、仲間はずれ	39.0	73
プライバシーの侵害	24.1	45
公的機関や企業・団体による不当な扱い	20.9	39
差別待遇（信条・性別・社会的身分・心身の障害などによる不利な扱い）	17.1	32
家庭内や交際相手からの暴力や虐待	12.8	24
性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	11.8	22
インターネットでの差別的な情報掲示、誹謗中傷	9.6	18
その他（具体的に：	4.3	8
わからない	6.4	12



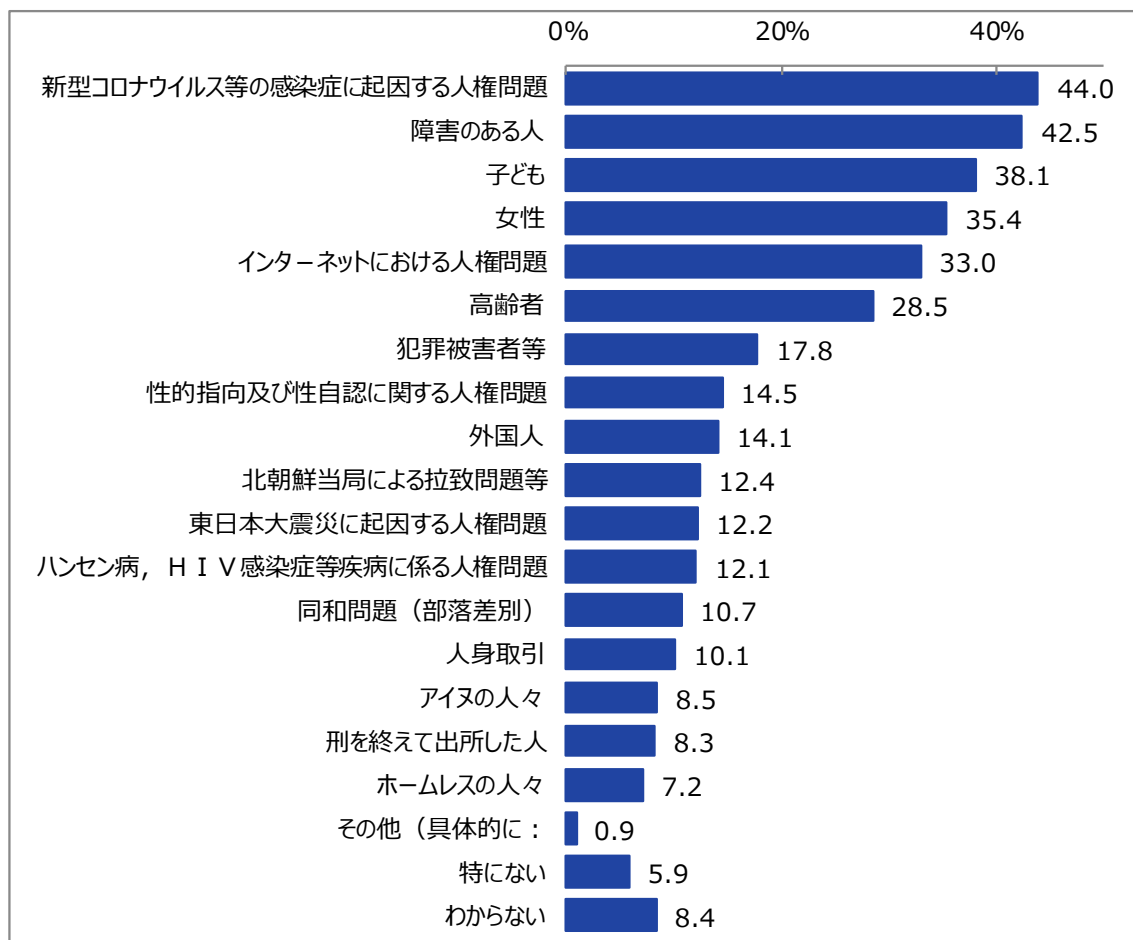
#### 4 力を入れるべき人権の分野

☆ 「新型コロナウイルス等の感染症に起因する人権問題」が44.0%で最も高く、次いで「障害のある人」が42.5%、「子ども」が38.1%と続く。

Q4.人権にはさまざまな分野がありますが、今後、どの分野に力を入れていくことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

MA

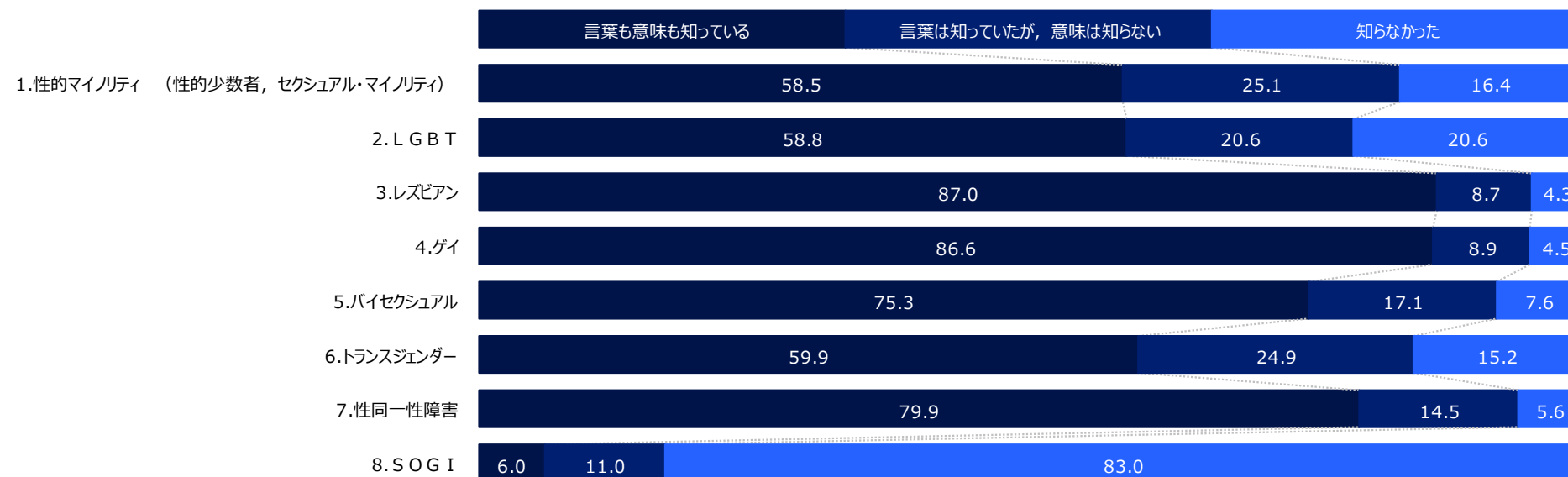
	%	n
全体	100.0	1000
新型コロナウイルス等の感染症に起因する人権問題	44.0	440
障害のある人	42.5	425
子ども	38.1	381
女性	35.4	354
インターネットにおける人権問題	33.0	330
高齢者	28.5	285
犯罪被害者等	17.8	178
性的指向及び性自認に関する人権問題	14.5	145
外国人	14.1	141
北朝鮮当局による拉致問題等	12.4	124
東日本大震災に起因する人権問題	12.2	122
ハンセン病, HIV感染症等疾病に係る人権問題	12.1	121
同和問題（部落差別）	10.7	107
人身取引	10.1	101
アイヌの人々	8.5	85
刑を終えて出所した人	8.3	83
ホームレスの人々	7.2	72
その他（具体的に：	0.9	9
特にない	5.9	59
わからない	8.4	84



## 5 性的マイノリティに係る言葉の認知状況

☆ 「言葉も意味も知っている」言葉では、「レズビアン」が87.0%、「ゲイ」が86.6%と高くなっている。一方で、「知らなかった」言葉では、「SOGI」が83.0%と高くなっている。

Q5.あなたは、次のア〜クという言葉と意味について知っていますか。（ア〜クについて、それぞれ1つずつ）



	(%)	言葉も意味も知っている	言葉は知っていたが、意味は知らない	知らなかった
1.性的マイノリティ（性的少数者、セクシュアル・マイノリティ）	100.0	58.5	25.1	16.4
2.LGBT	100.0	58.8	20.6	20.6
3.レズビアン	100.0	87.0	8.7	4.3
4.ゲイ	100.0	86.6	8.9	4.5
5.バイセクシュアル	100.0	75.3	17.1	7.6
6.トランスジェンダー	100.0	59.9	24.9	15.2
7.性同一性障害	100.0	79.9	14.5	5.6
8.SOGI	100.0	6.0	11.0	83.0

※性的マイノリティとは、同性に恋愛感情を持つ人や、生まれ持った性（出生時の性）と心で感じている性（自認の性）が一致しない人などのことを言います。

※LGBTとは、L（レズビアン：女性の同性愛者）、G（ゲイ：男性の同性愛者）、B（バイセクシュアル：両性愛者）、T（トランスジェンダー：性同一性障害・性別違和など）の頭文字を合わせた言葉で、性的マイノリティをあらわす総称の一つです。

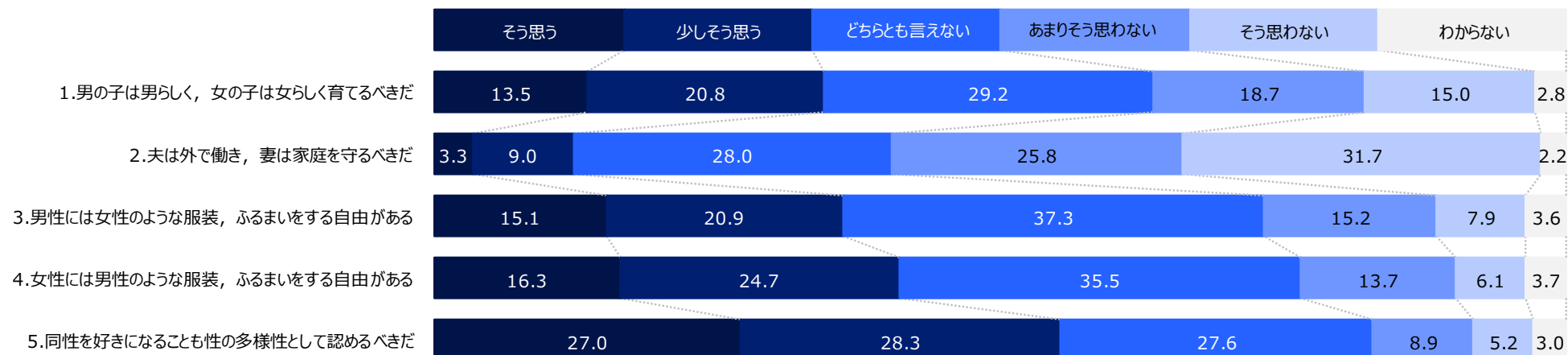
※SOGIとは、「性的指向」（Sexual Orientation、恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか）と「性自認」（Gender Identity、「私は男（女）である」等の、自分がどの性別であるかについての内面的・個人的な認識）の頭文字を合わせた言葉です。

## 6 性別に関わる意識

- ◇ 「同性を好きになることも性の多様性として認めるべきだ」について、「そう思う」(27.0%)と「少しそう思う」(28.3%)を合わせた【そう思う】が55.3%となっている。
- ◇ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」については、「あまりそう思わない」(25.8%)と「そう思わない」(31.7%)を合わせた【そう思わない】が57.5%となっている。

Q6.次のア～オについて、あなたのお考えやお気持ちにもっとも近いものはどれですか。(ア～オについて、それぞれ1つずつ)

SA



	%	お考えやお気持ち						集計	
		そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	【そう思う】	【そう思わない】
1.男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるべきだ	100.0	13.5	20.8	29.2	18.7	15.0	2.8	34.3	33.7
2.夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	100.0	3.3	9.0	28.0	25.8	31.7	2.2	12.3	57.5
3.男性には女性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	15.1	20.9	37.3	15.2	7.9	3.6	36.0	23.1
4.女性には男性のような服装、ふるまいをする自由がある	100.0	16.3	24.7	35.5	13.7	6.1	3.7	41.0	19.8
5.同性を好きになることも性の多様性として認めるべきだ	100.0	27.0	28.3	27.6	8.9	5.2	3.0	55.3	14.1

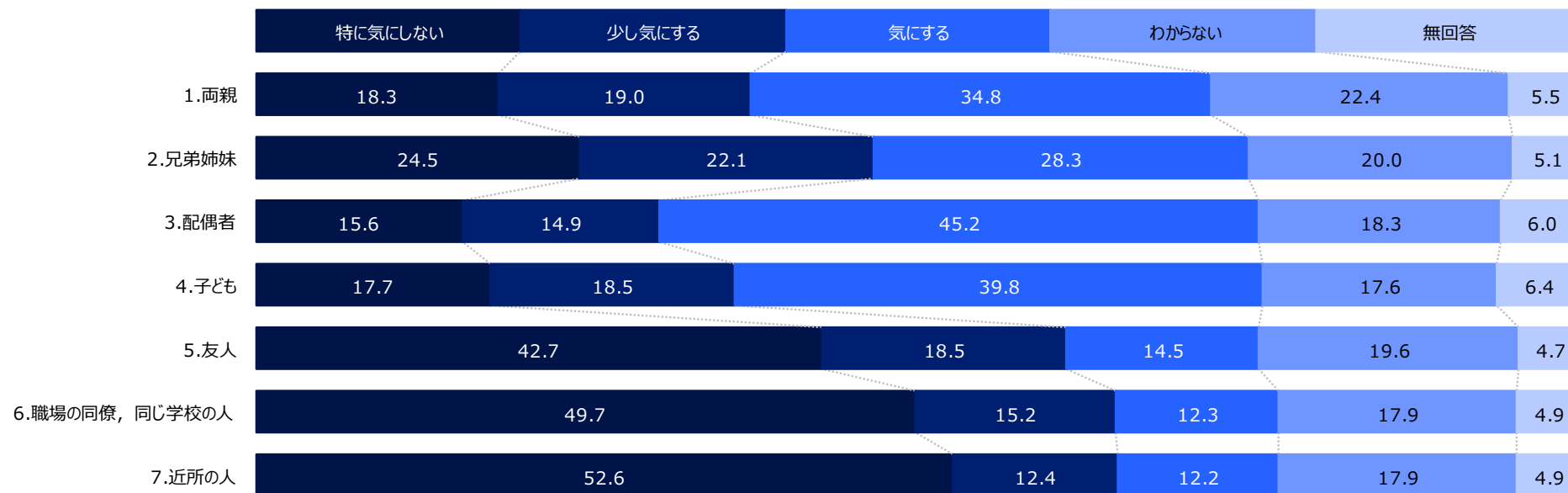
## 7 身近な人が性的マイノリティだった場合の感じ方

◇ 「特に気にしない」では、「近所の人」が52.6%、「職場の同僚、同じ学校の人」が49.7%と高くなっている。

◇ 「気にする」では、「配偶者」が45.2%、「子ども」が39.8%と高くなっている。

Q7.次のア～キの方が性的マイノリティだったとした場合、あなたはどう思いますか。（ア～キについて、それぞれ1つずつ）

SA



	%	特に気にしない	少し気にする	気にする	わからない	無回答
1.両親	100.0	18.3	19.0	34.8	22.4	5.5
2.兄弟姉妹	100.0	24.5	22.1	28.3	20.0	5.1
3.配偶者	100.0	15.6	14.9	45.2	18.3	6.0
4.子ども	100.0	17.7	18.5	39.8	17.6	6.4
5.友人	100.0	42.7	18.5	14.5	19.6	4.7
6.職場の同僚, 同じ学校の人	100.0	49.7	15.2	12.3	17.9	4.9
7.近所の人	100.0	52.6	12.4	12.2	17.9	4.9

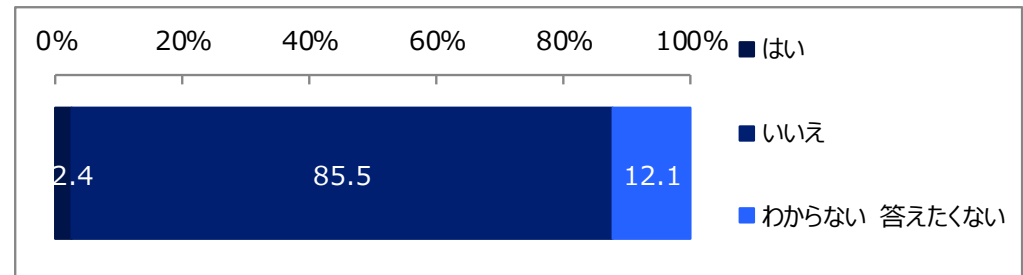
## 8 性的マイノリティの当事者か

◇ 性的マイノリティの当事者かどうかについて、「はい」が2.4%となっている。

Q8.あなたご自身は、性的マイノリティの当事者ですか。あてはまるものを1つ選んでください。ただし、わからない場合や答えたくない場合は「3.わからない 答えたくない」を選択し、Q10へお進みください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
はい	2.4	24
いいえ	85.5	855
わからない 答えたくない	12.1	121



## 9 性的マイノリティであることの公表

◇ 「性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている」は、24人中9人となっている。

(Q8で「はい」と回答した方へ)

Q9.あてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	24
性的マイノリティであることを周囲に打ち明けている	37.5	9
性的マイノリティであることを自身の了解なく暴露されたことがある	16.7	4
どちらも該当しない	54.2	13



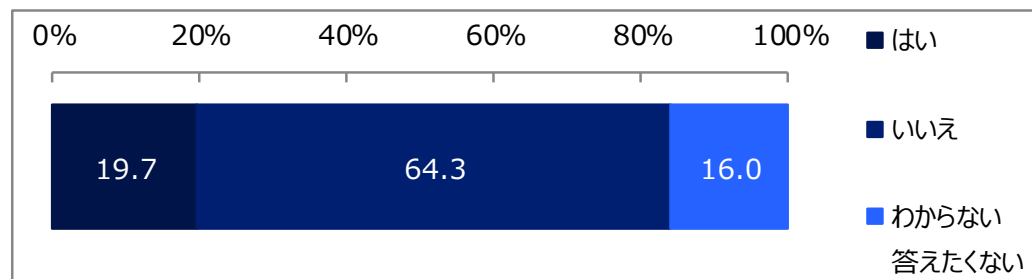
## 10 周りに性的マイノリティの方がいるか

◇ 周りに性的マイノリティの方がいるかについて、「はい」が19.7%、「いいえ」が64.3%となっている。

Q10.今まで、あなたの知り合いで、性的マイノリティの方はいましたか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

SA

	%	n
全体	100.0	1000
はい	19.7	197
いいえ	64.3	643
わからない 答えたくない	16.0	160



## 11 性的マイノリティの方との関係性

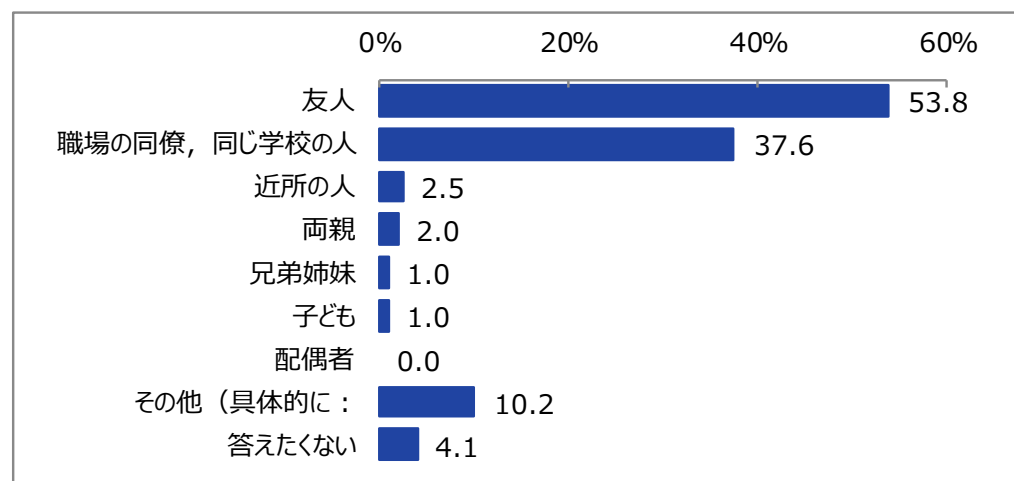
◇ 「友人」が53.8%で最も高く、次いで「職場の同僚、同じ学校の人」が37.6%と続く。

(Q10で「はい」と回答した方へ)

Q11.それは、あなたにとってどのような関係の方ですか。あてはまるものを全て選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	197
友人	53.8	106
職場の同僚、同じ学校の人	37.6	74
近所の人	2.5	5
両親	2.0	4
兄弟姉妹	1.0	2
子ども	1.0	2
配偶者	0.0	0
その他（具体的に：	10.2	20
答えたくない	4.1	8



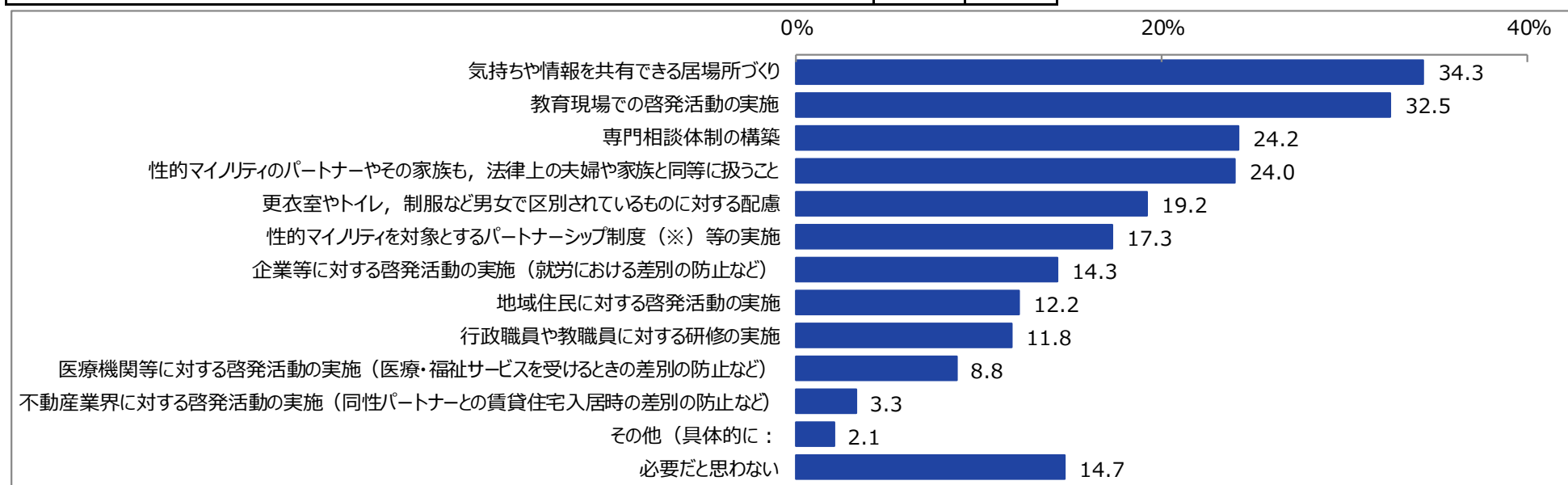
## 12 性的マイノリティに対する差別や偏見のない社会に向けて必要な取組

☆ 「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」が34.3%で最も高く、次いで「教育現場での啓発活動の実施」が32.5%と続く。

Q12.あなたは、性的マイノリティに対する差別や偏見のない社会を実現するためには、何が必要だと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

MA

	%	n
全体	100.0	1000
気持ちや情報を共有できる居場所づくり	34.3	343
教育現場での啓発活動の実施	32.5	325
専門相談体制の構築	24.2	242
性的マイノリティのパートナーやその家族も、法律上の夫婦や家族と同等に扱うこと	24.0	240
更衣室やトイレ、制服など男女で区別されているものに対する配慮	19.2	192
性的マイノリティを対象とするパートナーシップ制度（※）等の実施	17.3	173
企業等に対する啓発活動の実施（就労における差別の防止など）	14.3	143
地域住民に対する啓発活動の実施	12.2	122
行政職員や教職員に対する研修の実施	11.8	118
医療機関等に対する啓発活動の実施（医療・福祉サービスを受けるときの差別の防止など）	8.8	88
不動産業界に対する啓発活動の実施（同性パートナーとの賃貸住宅入居時の差別の防止など）	3.3	33
その他（具体的に：	2.1	21
必要だと思わない	14.7	147



※パートナーシップ制度とは、性的マイノリティのカップルが互いに人生のパートナーであると宣誓したことを自治体が証する制度です。

## ■調査の目的

県民の「人権」に対する意識や人権問題への認識について把握し、人権施策の成果の確認や、より効果的な啓発手段等の考察など、今後の人権教育・啓発活動の推進に役立てる。

また、県民の性別にかかわる意識や、性の多様性についての認識の状況について調査し、今後の啓発活動や、多様性を認め合う社会づくりに向けた施策に反映させる。

## ■実施概要

- ・実施期間 令和2年8月28日～9月4日
- ・サンプル数 茨城県常住人口調査（令和2年4月1日現在）に基づく性別・年代・居住地（5地域）の割合で割り付けた18歳以上の県民1,000サンプル

回答者数（人）

		県北	県央	鹿行	県南	県西	計
全体		205	160	96	348	191	1,000
性別	男性	106	80	51	178	99	514
	女性	99	80	45	170	92	486
年代別	18～29歳	33	27	17	65	33	175
	30歳代	34	28	17	62	32	173
	40歳代	46	37	21	81	42	227
	50歳代	45	33	19	69	38	204
	60歳代	47	35	22	71	46	221

県北：日立市，常陸太田市，高萩市，北茨城市，ひたちなか市，常陸大宮市，那珂市，那珂郡，久慈郡

県央：水戸市，笠間市，小美玉市，東茨城郡

鹿行：鹿嶋市，潮来市，神栖市，行方市，鉾田市

県南：土浦市，石岡市，龍ヶ崎市，取手市，牛久市，つくば市，守谷市，稲敷市，かすみがうら市，つくばみらい市，稲敷郡，北相馬郡

県西：古河市，結城市，下妻市，常総市，筑西市，坂東市，桜川市，結城郡，猿島郡

(注)

1. 「ネットリサーチ」の回答者は、民間調査会社のインターネットリサーチモニターであり、無作為抽出された調査対象者ではない。
2. 割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
3. 図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。